

第三者評価実施事業者募集のQ&A

2020年10月7日

	ご質問	回答	更新日
<b>1</b>	<b>説明会、応募について</b>		
(1)	応札者は本説明会への参加が必須とのことですが、本説明会に参加していない当方の所属職員は応札不可ということでしょうか。もしくは、所属先から1人でも参加していれば、その職員以外も応札可能でしょうか？	同一組織内から1名様でも参加があれば、当該組織は応札可能です。	2020/10/1
(2)	応募に際しまして、事業番号毎に応札するというのでしょうか？もしくは、全事業の第三者評価を行うということでしょうか？	応募者が応札する事業（事業番号1～3）を選択し、それぞれの事業毎に応募してください。事業（事業番号1～3）毎に、第三者評価者を選定します。 なお、複数の事業番号の事業について第三者評価を実施いただくことも可能です。その際には、応募する事業番号毎に提案書を作成してください。（募集要領3, 4pご参照）	2020/10/1
(3)	「評価実施者募集要領」のP4「（3）公募締切」に、「公募説明書に沿って」とありますが、こちらは別途配布されている資料でしょうか？	誤った記載があり申し訳ございません。「公募説明書」は「評価実施者募集要領」を指しています。	2020/10/7
(4)	「評価実施者募集要領」のP4「（3）公募締切」にあります「プレゼンテーション日程調整希望表（様式3）」について、提出先（メール/郵送等の宛先）や提出形態（メールの場合PDF等）を教えてください。また、P7「（6）提案書・見積書の提出」の提出先（メールアドレス）を教えてください。	いずれもPDFでメールにて（hyouka@janpia.or.jp）に送付してください。	2020/10/7
<b>2</b>	<b>第三者評価の業務内容について</b>		
(1)	評価調査は、評価対象事業所を訪問するなどの現地調査を想定していますか？	対象団体の状況をより理解いただくためにも現地調査も想定しています。但し、その際には、対象団体の負荷、コロナ感染対策等についても配慮して下さい。	2020/10/1
(2)	事業の対象者（受益者）に対するインタビュー調査等は行いますか？	受益者へのインタビューも、その必要性に応じて含めてください。但し、対象事業に拠っては受益者インタビューの実施が困難である場合があり、その場合は実施を見送っていただきます。	2020/10/1
(3)	評価デザイン（成果指標の設定や評価方法の選択）については、事前に資金分配団体や実行団体と協議して合意を得てから開始するという理解でよろしいでしょうか？	評価デザイン（成果指標の設定や評価方法の選択）については、事前に資金分配団体や実行団体と検討会等で協議して合意を得てから開始していただきます。（募集要領13pご参照）	2020/10/1
(4)	検討会は、1事業あたり、どの程度の頻度、回数を想定していますか？	4回程度想定しています（募集要領p.14 図表4ご参照）	2020/10/1
(5)	第三者評価は独立した客観的な評価であるものの、事業そのものをよく理解しているのは実行団体であり、実行団体が自己評価も行っているのであれば、第三者評価も基本的には自己評価に沿ったものになるという理解でよろしいでしょうか？	ご指摘のとおり、事業そのものをよく理解しているのは実行団体だと思います。しかしながら、自己評価は時間・予算・人的資源など様々な制約がある中で実施しておりますので、必ずしも実行団体が測定したいアウトカムや指標が自己評価で網羅されているわけではありません。第三者評価者には、より具体的、複数の測定手法を組み合わせる等より信頼性の高い評価を求めます。	2020/10/1

	ご質問	回答	更新日
(6)	<p>第三者評価では、実行団体のアウトカムの達成度と資金分配団体のアウトカムの達成度だけを見ればよいのでしょうか。資金分配団体の課題設定・戦略が間違っているという可能性もあるので、それも含めた方がよろしいのではないのでしょうか？</p>	<p>第三者評価は、成果の可視化を行うことを目的として実施しますので、基本的には、アウトカムの達成度について中心的に評価して頂くこととなります。但し、必ずしも事業計画で設定されている指標で成果が見られるわけでもなかったり、ロジックとしてはしっかりとしたロジックになっていない等もあるかもしれません。その点を留意いただき、当該事業に依りどのような成果が出ているかという点を評価してください。</p> <p>なお、第三者評価においてポイントとなるのは「体系的に」「多面的に」という点です。アウトカムの検証の結果、課題があった場合は、その原因についても分析して頂くことが期待されます。そのため「実施状況の適切性」などのアウトカムに至るまでの情報も併せて把握して頂くことが推奨されます。また、一面的な評価ではなく多面的な検証をしてください。良かった点だけをピックアップしたり、特定の視点に偏った評価にならないよう留意してください。</p>	2020/10/7
(7)	<p>参加型評価の活用はどのように考えればよろしいでしょうか。今回の対象事業はいずれも新規性があるように思いますし、外部の第三者が価値を抽出、検証することは簡単ではないように思います。その際には資金分配団体や実行団体を含めた参加型評価などのアプローチが有用なこともあると思います。そのような参加型評価の活用はどのように考えられますか？</p>	<p>基本的には、検討会等で対象団体や専門家等との協議を経て第三者評価は行われていきますが、価値判断や調査自体は、第三者評価者に委ねます。但し、対象団体では、第三者評価受け入れの負荷を非常に気にされていますので、その点を許容できる範囲であれば、参加型評価というのも望ましいと考えます。対象団体の負荷がかからない進め方での実施をご提案いただき、かつ対象団体でも同意されるようであれば活用ください。</p> <p>また、「評価指針」では、評価の5原則を掲げており、その1番目に「多様な関係者の参加・連携・共同」を入れています。つまり、評価を行う上では、そのような参加・連携・共同を取り入れてくださいということですが、団体が行う自己評価において参加型評価の要素を求めています。そのため、自己評価として行う当該要素と区別して、第三者評価で参加型アプローチを取るにしても、より信頼性や客観性を高めるという点に留意いただき、提案してください。</p>	2020/10/7
(8)	<p>副作用（負の成果）の評価も含みますか？</p>	<p>負の影響についても考慮に入れてください。（募集要領 17pご参照）</p>	2020/10/7
(9)	<p>メタ評価(評価の評価(※))の側面を含みますか？</p> <p>(※)第三者の立場から（対象団体が実施した）評価の有効性・適切性を評価すること</p>	<p>今回の第三者評価は「評価の評価」を目的としていません。今回の第三者評価の目的は、対象事業の社会の諸課題の解決を図るという成果の可視化を独立した第三者の立場で行うことです。</p>	2020/10/7
(10)	<p>第三者評価の対象となっている実行団体の事業全てにおいて、ToCやロジックモデルがつくられていますか。何に取り組み始めたのかが分からないと、アウトカムの達成が当該事業に依るものかわからないと思います。ToCやロジックモデルが無い場合、第三者評価では、これらの作成から取り組む必要があるということでしょうか？</p>	<p>全ての資金分配団体でToC（セオリー・オブ・チェンジ）が作成されていますが、実行団体ではロジックモデル等の作成を必須としていません。</p> <p>ToCやロジックモデルがない場合、実行団体が重要と考えている一連の活動から、何が成果として導き出せるかを第三者の視点から検証していただき、成果の可視化を行っていただく必要があります。</p>	2020/10/7

	ご質問	回答	更新日
(11)	<p>資金分配団体は資金的支援と非資金的支援を行っていますが、第三者評価では、資金的支援を評価対象にすると示されています。しかし、本制度の包括的支援プログラムでは非資金的支援も行われている中、資金分配団体の何を評価するのかもう少し詳細に教えていただけますでしょうか？</p> <p>(実行団体のアウトカムが達成されたか否かを客観的に評価するという事は理解しています。)</p>	<p>資金分配団体が設定している中長期アウトカムに照らし合わせたときに、どのような成果が出ているかを評価して頂きます。非資金的支援に関するアウトカムは必ずしも実行団体が設定している短期アウトカムと一致しておらず、資金分配団体と実行団体は、それぞれに設定している中長期アウトカムを達成する手段として、短期アウトカムを設定しておりますので、中長期アウトカムを目指した時に、事業として何が成果として出現しているか、を見る視点が重要になります。このため、実行団体についても、実行団体が設定している短期アウトカムに縛られるものではなく、実行団体が設定している中長期アウトカムに照らし合わせたときに、実行団体が計画している活動を行うことによってどのような成果が出ているかを可視化するという視点が重要になります。</p>	2020/10/7
<b>3</b>	<b>第三者評価業務の予算について</b>		
(1)	<p>第三者評価の予算は500万円/事業とのことですが、今回の公募は、6事業で3000万円が想定予算ということでしょうか。または、評価事業として500万円ということでしょうか？</p>	<p>この「事業」とは「事業番号」をさしていますので、今回の公募では、対象事業数は3つで1500万円が総額の想定予算です。事業番号毎に第三者評価予算として約500万円を想定しています。(募集要領3pご参照)</p>	2020/10/1
(2)	<p>第三者評価の予算(500万円/事業)には人件費・経費両方が含まれているという理解でよろしいでしょうか？</p>	<p>はい。提案書類の見積書には、年度毎に人件費と必要経費に分け、内訳を記入してください。(募集要領7pご参照)</p>	2020/10/1
(3)	<p>第三者評価の予算目安(500万円/事業)は税込みでしょうか？</p>	<p>税抜きです。</p>	2020/10/7
<b>4</b>	<b>第三者評価事業者選定の審査について</b>		
(1)	<p>第三者評価者の審査において、見積額も考慮されますか。または、予算(500万円/事業)内に収まっていれば、提案内容のみで評価されるのでしょうか？</p>	<p>本公募は総合評価方式としており、提案書、見積書、プレゼンテーションにより総合的に評価します。</p>	2020/10/1
(2)	<p>プレゼンテーション審査は、どれくらいの時間を想定していますか。</p>	<p>プレゼンテーション審査は30分程度を予定しています。そのうちプレゼンテーションを10分弱で実施していただき、質疑応答を20分程度予定しております。なお、プレゼンテーションは業務従事予定者に行っていただきます。(募集要領4pご参照)</p>	2020/10/1
(3)	<p>プレゼンテーション審査では、どのような点を重視されますか？</p>	<p>プレゼンテーション審査では主に以下の点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本制度や当該事業に対する理解</li> <li>・提案内容を簡潔に分かりやすく説明できるか</li> <li>・論理性・説得力・コミュニケーション能力全般</li> </ul>	2020/10/7
(4)	<p>プレゼンテーション審査のオーディエンスはどのような方々ですか？</p>	<p>JANPIAで審査を行う者が数名出席します。</p>	2020/10/7
<b>5</b>	<b>その他</b>		
(1)	<p>2019年度採択のソーシャルビジネス形成支援事業のうち、2事業を第三者評価対象事業として今後追加する予定とのことですが(募集要領2p)、公募はいつ頃行われますか？</p>	<p>11月頃に公募を行う予定ですが、対象団体との調整状況に拠っては変更される可能性があります。</p>	2020/10/1

	ご質問	回答	更新日
(2)	第三者評価の対象事業をどのように選定されたか、選定基準を教えてください。	<p>第三者評価の対象事業の選定には、以下の基準を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模なもの</li> <li>・重要なものや国民的な関心が高いもの</li> <li>・革新性の高いもの</li> <li>・発展性に富むもの</li> </ul> <p>上記に加えて、団体が行う民間公益活動への妨げにならないよう負荷の視点から、候補団体（資金分配団体、実行団体）と協議の上で選定しています。</p>	2020/10/7
(3)	第三者評価は、JANPIAのための評価でしょうか？あるいは資金分配団体、実行団体へのためのフィードバックでしょうか？	<p>第三者評価の目的は、第三者の立場から、対象事業の社会の諸課題の解決を図るという成果の可視化をより厳正な評価によって行うことです。第三者評価を実施することにより、事業の成果による情報を積極的に情報発信することで、広く国民の理解を得ること、また、より厳正な評価を実施することで、民間公益活動全般の質の向上、独創的で有望な革新的な民間公益活動の発掘、民間の資金や人材の獲得等を促すことを目指しています。</p>	2020/10/7